

《専門教育科目 専門応用科目》

科目名	幼小連携教育研究				
担当者氏名	藤田 敏朗				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《授業の概要》

幼稚園の学びと小学校の学習との段差が大きく小学校に馴染めない子どもがいる現状がある。本科目は、就学前の子どもと就学後の子どもの交流や教職員の交流によりスムーズに幼児期から学童期へ移行するために幼少の教育課程の編成を考慮しながら幼少の連携について学ぶ。

《授業の到達目標》

幼少の具体的な交流方法や幼児期（就学前）のカリキュラム及び児童期（就学後）のカリキュラムを学ぶことによって幼児、児童に習得すべき能力がわかる。また、教育課程における幼少連携の位置づけが理解できる。

《成績評価の方法》

学習態度 30% 実践課題、提出物 70% で評価

《テキスト》

必要に応じて適宜配布する。

《参考図書》

小学校学習指導要領（文科省）平成29年告示
 幼稚園教育要領（文科省）平成30年3月
 保育所保育指針（厚労省）平成30年3月
 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）（文科省）平成22年11月

《授業時間外学習》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、評価方法など
2	幼少連携のこれまでの経緯	小1プロブレムなどから幼少連携がなぜ必要になったのかを考える。
3	関係省庁から見る幼少連携	文部科学省、厚生労働省が保幼少連携についての方向性を知る。
4	幼少連携のカリキュラム作りをどう進めるか。	幼稚園、保育所の取り組みと小学校の取り組みを接続機として捉え、双方の特性を踏まえる必要性について知る。
5	幼少連携カリキュラム① アプローチカリキュラム	幼児期から学童期に向けて取り組む指導の内容と方法について①
6	幼少連携カリキュラム② アプローチカリキュラム	幼児期から学童期に向けて取り組む指導の内容と方法について②
7	幼少連携カリキュラム③ スタートカリキュラム	小学校入学時から取り組む指導の内容と方法について（学習指導要領の考察）
8	幼少連携カリキュラム④ スタートカリキュラム	小学校入学時から取り組む指導の内容と方法について（基本的生活習慣、教科・領域の学習からのアプローチ）
9	幼少連携プログラム① 生活科を中心に（理論編）	小学校で取り組む幼児期の子どもの交流プログラムの内容・方法を生活科を中心にできることを考える。
10	幼少連携プログラム② 生活科を中心に（実践編）	実践事例をもとに交流プログラムの展開を指導案として考える。
11	幼少連携プログラム③ 生活科を中心に（実践編）	作成した指導案をもとに交流プログラムの準備をする。
12	幼少連携プログラム④ 生活科を中心に（実践編）	作成した指導案をもとに交流プログラムの実践をおこなう。
13	幼少連携プログラム⑤ 高学年を中心に（理論編）	小学校で取り組む幼児期の子どもの交流プログラムの内容・方法を総合的な学習の時間を中心にして考える。
14	幼少連携プログラム⑥ 高学年を中心に（実践編）	実践事例をもとに交流プログラムの展開を指導案として考える。
15	まとめ	特別支援教育を視野に入れた幼少連携と学習の振り返り